



分科会 9 専門性を兼ね備えた薬剤師をめざす

10月7日(日) 13:30～16:00 第17会場(ホテルクラウンパレス浜松 3F 松の間C)

W-09-04

がん専門薬剤師に求められるものは何か？

いしかわ ひろし
石川 寛

静岡県立静岡がんセンター・薬剤部

近年、がん治療が高度に専門化し、薬剤師の職能に大きな変化をもたらしている。また、今までの抗がん剤と作用機序が異なる分子標的薬剤が続々と登場や、年々新しくなるがん薬物療法に対する抗がん剤の過剰投与や誤投薬による医療事故、重篤な副作用の発現などから、薬物治療における薬剤師の役割は、治療効果だけではなく安全対策面でも重要性を増している。このような医療現場において、患者さんの安全性を確保するためには、高度な専門知識や技能、経験を持つ医療スタッフがチームとして治療にあたらなければならない。がん専門薬剤師は、薬の専門家として、がん薬物療法を行う患者さんすべてに対し、安全でかつ安心して治療を受けられる環境を提供し、常に患者さんの状態を把握し、適切な薬物療法を提供する責務を負っている。そのためには、(1) 患者さんの病態や心理的な状況の適確な把握、(2) 有効性と安全性が科学的に証明された薬物の選択、(3) 患者さんの状態にあわせた用法・用量の選択、(4) 副作用の予測と対策、(5) 投与された薬物療法の効果判定、(6) チーム医療における、医師や看護師、他のコメディカルと連携し、患者さん中心の医療体制に貢献する、(7) 患者さん個々の理解度とニーズを考慮した薬剤の効果、副作用発現のタイミングや初期症状などについてのわかりやすい説明、(8) レジメン管理、(9) 薬物相互作用などが必要になると考えられる。この中で、最も大切なものが、がん薬物療法における副作用回避である。がん薬物療法では、副作用を回避することで治療継続に直結する。患者さんによって薬の効き方が異なるので、副作用の発生状況を面談で評価して、問題点を把握し、副作用を軽減するための薬剤の追加、投与量の増減について医師に提案する。患者さんに対する薬学的ケアを行うことにより、医師や看護師、他のコメディカルとの連携によって医師の負担が軽減され、患者さん自身も安心でき、薬物療法の適正化が推進され、治療の質的向上だけでなく、副作用の軽減、また医療事故の防止などが行われることになる。また、がん薬物療法と併用する薬剤との薬物相互作用を考慮して、併用する薬剤の変更などを考えることも必要になる。薬物相互作用は以外と軽視されがちであるが、併用する薬剤によっては抗がん剤の副作用増強、また抗がん剤の効果が減弱するものがある。つまり、患者さんの合併症や現在使用されている薬剤との薬物相互作用を理解していなければ、標準治療であっても、適切ながん薬物療法の提供は困難となる。そのため、薬剤師は、がんの薬物療法だけでなく、一般的な薬剤に関する薬理学的知識や合併症の病態の理解が基本にあることが求められる。がん専門薬剤師の資格を得るためには、がん薬物療法の高度な知識・技術と臨床経験が必要である。その基準を満たさなければ、がん専門薬剤師にはなれない。しかし、がん専門薬剤師を取得することがゴールではない。日々変化するがん治療を把握し、がん薬物療法の知識、経験ともに習得したレベルの高い薬剤師でなければ、高度な医療チームのなかで求められる役割を担うことができないし、患者さんに対しても安全でかつ安心ながん薬物療法を提供することもできない。がん専門医療チームのなかで対等にコミュニケーションをとるためには、常に高度な知識を習得する必要がある。さらに、副作用に関する専門知識、エビデンスとなる文献を読み、解釈するための統計学的な知識など、がん全般にわたる学習が必要である。がん専門薬剤師を取得してその知識を最大限に生かせるように、常にもうひとつ上のステップを考えながら日々努力していく必要がある。